

李方子 没後 30 年特別公演 創作オペラ

# ザ・ラストクイーン

Opera The Last Queen

朝鮮王朝最後の皇太子妃



ご存じですか？

かつて隣国で王様に劣らぬ大葬列で見送られた

日本女性がいたことを……

日本の皇族でありながら朝鮮王朝の皇太子の元へ嫁いだ李方子妃。  
 ふたつの祖国に捧げたその激動の人生が、現在に魅惑……

主演

Chon Wolson

台本

Kinoshita Nobuko・Chon Wolson

作曲

Son Donghoon・RyuGetsu

## 大阪公演決定！

2019年3月10日(日)  
 14時・17時開演

ドーンセンター ホール(大阪市)  
 (大阪府立男女共同参画・青少年センター)

<http://lastqueen.net>

主催：オペラ「ザ・ラストクイーン」実行委員会 CALAF.NET

後援：外務省 駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院 大阪府

社団法人全州李氏大同宗約院 社団法人慈行会

衣装協賛：学校法人文化学園 協力：草田織維キルト博物館

# 国境を越えた愛と真実の物語。 圧巻のラストシーン！ 劇場は鳴り止まぬ拍手と熱い涙に包まれた……

この作品は、日本の皇族に生まれ後の昭和天皇のお后候補とも言われたが、予期せぬ運命により朝鮮王朝の皇太子の元へ嫁いだ李方子(りまさこ/イ・バンジャ=1901年~1989年)をモデルとしたモノオペラである。日本と朝鮮の狭間で翻弄されながらも押し寄せる波乱に立ち向かい皇太子・李垠との純愛を貫いた。李方子を演じるのは「魂の歌声」で世界を魅了するプリマドンナ・田月仙(チョン・ウォルソン)。自らがその実像に迫るため日韓で取材を続け台本を練り上げた。舞台では当時婚礼の儀で着用された王朝の伝統衣装・翟衣を復元。音楽は西洋音楽に日韓のリズムを取り入れたオリジナル作品。2015年、日韓国交50周年特別企画として新国立劇場で初演。2016年、「文化庁芸術祭参加公演」として再演され感動と衝撃をもたらした。李垠殿下と方子妃はかつて大阪・大手前に暮らした。奇しくもその跡地で、平成最後となる2019年3月、李方子妃没後30年特別公演オペラ「ザ・ラストクイーン」が幕を開ける！



写真：李方子妃  
韓国国立大宮博物院蔵/イ・バンジャ・ウォルソン



— オペラ「ザ・ラストクイーン」の上演を祝福いたします。 —

廣橋興光 (李方子妃 甥) (初演時)  
李 源 (全州李氏大同宗約院 総裁/皇嗣孫)  
李 公宰 (李方子妃 元秘書)  
朴 夏順 (社団法人 藝行会 理事)  
康 聖淑 (明神園 元園長)  
大沼 淳 (学校法人 文化学園 理事長)  
金 順姫 (草田織物キルト博物館 館長)  
武藤正敏 (元在韓大韓民国特命全權大使)

チョン・ウォルソン プロデュース

オペラ

# ザ・ラストクイーン

## 朝鮮王朝最後の皇太子妃 待望の関西公演！

東京で全ての公演が満席となった衝撃の話題作



企画・台本・主演  
チョン・ウォルソン  
田月仙  
Chen Wolson



李垠殿下の化身(儀)役  
相沢康平  
バリエーション



作曲  
ソン・ドンファン  
Sam Doughson



台本  
木下宣子  
Kimoshina Nobuko



チアリーダー  
演中博久

vocal アンサンブル



田中由佳



星野律子



石山陽太郎



相原 嵩

CALAF ミュージックアンサンブル



富永峻  
jmuu



桜田 悟  
viedo



花積亜依  
Eri



若狭直人  
cdhu

舞踊



金姫玉/鄭一珠/文秋玉/樺寛子/高梨恵

芸術監督 田月仙 / 演出 Kim Sujin / 照明 LIGHTSHIP / 音響 フィガロサウンドワークス / 舞台監督 渡辺重明  
衣装協賛 学校法人 文化学園 制作 Team Wolson 協力 アイ・エー・ダブル(IAW) 金姫玉韓国伝統舞踊研究所  
字幕 井水弘之 映像 田原浩一 朗読 キム・テグワン 写真撮影 菊地健志 ヘアメイク 崔智姫 デザイン 菅宿玲子 プロデューサー Ota Shinichi

あらすじ  
……1916年夏、日本の皇族、梨本宮家の娘・15歳になったばかりの方子は自分の婚約を新聞で知る。相手は日本に留学していた旧大韓帝国の皇太子・李垠。政略結婚と言われたが、ふたりの間には真実の愛が生まれる。結婚後、生まれたばかりの長男・晋の死(毒殺説もある)など次々に困難が襲いかかるが、方子は夫である李垠殿下の苦悩を理解し支えた。しかし太平洋戦争が終わると、二人は皇族の身分も国籍も全てを失う。もはや日本人でもなく、韓国人でもない。絶望する殿下。方子は、これからは自分が夫を守ると決意。夫を故国に帰そうとするが、難航する。ようやく、二人に韓国へ渡る許可が出たのは、戦後20年近く経った日韓国文正常化直前のことだった。しかし、夫はすでに病に侵されていた……。方子は、夫の死後も韓国に残り日韓両国のために尽くそうと誓う。当初は冷ややかな視線を浴びながらも、韓国の恵まれない子供達のための福祉活動に身をささげる。そしてついには「韓国の母(オモニ)」とまで呼ばれるようになる。87歳で死去した際は、韓国民の涙で見送られ、その葬列は数キロにも及んだ……。

2019年3月10日(日) 14時・17時開演  
ドーンセンター ホール(大阪市)  
(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

大阪市中央区大手前1-3-49 06-6910-8500  
http://www.dawncenter.jp  
京阪「天満橋」駅、地下鉄谷町線「天満橋」から徒歩

S席 9000円  
チケット A席 7000円  
B席 5000円

お問い合わせ・申し込み <http://lastqueen.net>  
ザ・ラストクイーン実行委員会 [mail@lastqueen.net](mailto:mail@lastqueen.net)  
カラフネット <http://calaf.net> [mail@calaf.net](mailto:mail@calaf.net)  
☎ 03-3366-1229 Fax 03-5338-4702  
ミュージックアートステーション ☎06-6836-7067  
e+(イープラス) <http://eplus.jp>

NHK おはよう日本・朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・産経新聞・東京新聞・東亜日報・日本オペラ年鑑・NHK BSスペシャルなどでも紹介。

——主演の田月仙は衣装を替えながら、15歳から87歳までを演じたが、特に朝鮮王朝の大礼服を纏った姿は、歌唱と共に美しく見事だった。……歴史に埋もれた日韓の愛を知る意味でも再演を望みたい。音楽評論家 三善清達(「音楽の友」より)

◇“感動”涙があふれて止まりませんでした…  
◇このような素晴らしい公演にめぐり会えたことをとても幸せに思います。  
◇ヒロインの生涯と圧倒的な歌声に衝撃を受けました。(アンケートより)